

インナー大会プレゼン部門 2018 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学名 (フリガナ)	学部名 (フリガナ)	所属ゼミナール名 (フリガナ)
フリガナ) ブンキョウガクインダイガク	フリガナ) ケイエイガクブ	フリガナ) ニッタ トシコ
文京学院大学	経営学部	新田 都志子 ゼミナール

※大会申込書時に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入し、「有」の場合は使用するスライド番号も記載してください。

チーム名 (フリガナ)	代表者名 (フリガナ)	チーム人数 (代表者含む)	PPT 内動画 (有・無)	動画使用 スライドページ
フリガナ) ビーチーム	フリガナ) ヤマモト マイ	5	無	
B チーム	山本 茉唯			

※当日使用する PC、マイク、レーザーポインター機能付きワイヤレスプレゼンターは会場に準備しております。

これらは個別にご用意いただいても大学施設・設備の関係上ご利用いただけませんのであらかじめご了承ください。

発表時に使用する成果物 (例: 商品化した●●、店舗で配布したパンフレット、調査時に使用したアンケート)

マイク 3 本、作成したマニュアル

※成果物の配布は、『禁止』とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

研究テーマ (発表タイトル)

訪日外国人に向けた地震対策

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要 (目的・狙いなど)

本研究は、訪日外国人が地震発生時に素早く初動対応ができるよう事前に知識を身につけてもらうために地震対策をする方法を考案することにより訪日外国人が安心して日本で過ごせるようになることを目的とする。

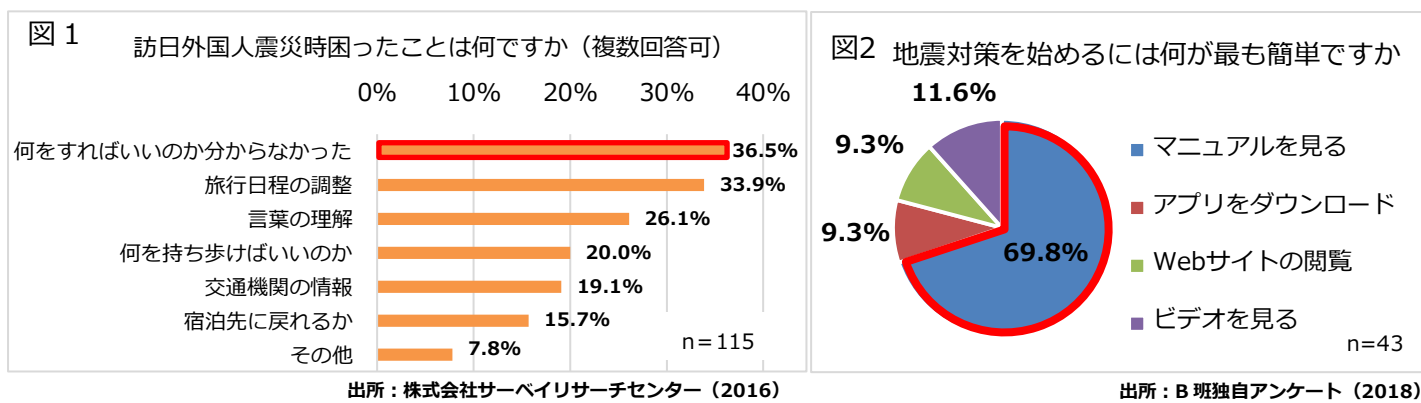
現在、外国人は災害時要支援者に含まれている。しかし、外国人は他の災害時要支援者とは異なり、知識や情報の取得ができるようになれば自ら行動することができ、災害時要支援者にはならないと考えた。このことから、私たちは外国人に着目し、中でも旅行者などの滞在期間が短く対策が難しい訪日外国人に絞り研究を進めた。

2. 研究テーマの現状分析 (歴史的背景、マーケット環境など)

日本は現在までに多くの地震が発生しており先進国の中で最も地震が多い国である。また今後も大きな地震が発生すると予想されている。国土交通省によると地震は発生前に「いつ・どこで・どのくらいの震度」かを科学的根拠に基づき予測することは困難である。また、文献研究や本郷消防署のヒアリングから地震発生直後は適切な判断が難しく、最優先で自分の身を守ることが大切であるため、発生直後の対応である初動対応を身につけることが重要であることが明らかになった。しかし、全ての人が同じよ

うに初動対応を行えるわけではなく、避難の際に支援が必要となる災害時要支援者が存在する。災害時要支援者とは「身体面での支援を要する人（障がい者や妊産婦、傷病者等）・介護面で支援を要する人（高齢者、幼児等）・情報面で支援を要する人（外国人等）」に分けられる。しかし、本郷消防署でのヒアリングから救助する人員には限りがあり、身体面での支援が必要な人に注力したいということや、外国人は他の災害時要支援者と異なり、情報面においての支援があれば身体面の支援は必要としないことがわかった。このことから私たちは知識と情報があれば外国人は災害時要支援者にならないのではないかと考えた。

そこで外国人に着目し、中でも旅行者などの短期間の滞在で対策が難しい訪日外国人に絞って研究を進めた。近年訪日外国人の人数は増加しており、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向け、今後も増えることが予想されている。訪日外国人は地震未経験者が多く、図1の訪日外国人に対して地震時に困ったことを聞いた際、「何をすればいいかわからなかった」という回答がもっとも多かった。また、国土交通省は外国人が日本を訪問する際は、「災害と発生時の行動に関する予備知識を習得してもらうことが必要」としている。行政が行う訪日外国人向けの地震対策としては、マニュアル・ビデオ・WEBサイト・アプリがあげられる。私たちが行った訪日外国人に対しての独自アンケート調査によると訪日外国人に対して、図2のように地震対策を始めるきっかけとしてはマニュアルが最も適していることがわかった。



3. 研究テーマの課題

既存の訪日外国人に向けたマニュアルを調査したところ①初動対応をわかりやすくまとめたマニュアルがない②外国人の手に届きづらいことが課題としてあげられた。文献研究や本郷消防署のヒアリングからわかった初動対応の重要性に従って訪日外国人向けにコンパクトにわかりやすく作られたマニュアルがないこと、行政の訪日外国人に向けた既存マニュアルの作成元に問い合わせをしたところ、作成元の県庁や市役所などのHPにPDFとしてのみの配布や、紙媒体としては県庁や市役所などの作成元でのみ配布しているため、既存のマニュアルは普及のために訪日外国人の手に取りやすい場所への配布の拡大は行っていないことが明らかになった。このことから訪日外国人が既存のマニュアルを入手することは困難であると考えた。

そこで私たちは重要である初動対応をわかりやすくまとめたマニュアルを作成し、多くの訪日外国人の手元に届く場所へ普及させ初動対応が正しく行える知識を習得してもらうことが課題であると考えた。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

上記の訪日外国人への地震対策に必要な要素を満たした理想的なマニュアルとして『おもてなしマニュアル』を作成し、まずは印刷費用の掛からないPDFデータとしてインバウンドメディアに掲載し印刷は各自が出国前に行ってもらおうことを目指す。次に台東区谷中にある、宿泊客の約9割が欧米豪の訪日外国人で、訪日客の宿泊を開始した1982年から昨年までに97か国地域の延べ17万7035人受け入れてきた「澤の屋」への設置が決定。その後、澤の屋での訪日外国人の反応を踏まえ、都内のホテルを管轄する組合や全国のホテルを管轄する組合へと提案する。最終的には国際空港での入国時にパスポートに挟むことや機内での入国カードとともに配布を目指し、国に働きかけを行っていく。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

訪日外国人へのマニュアルとして作成したものが以下のものとなる。



マニュアルの内容

① 初動対応

現状分析でも述べた通り、初動対応は地震発生時に重要であることからピクトグラムを用いたインフォグラフィックを使用し記載した。インフォグラフィックとは情報をビジュアルで表現し分かりやすく伝える手法である。ビジュアルは動きをとるための見本となり模倣しやすい。日本人には当たり前の地震発生時の対応でも外国人には当たり前でないこともあるため有効的であると考えた。

② 個人情報記入欄

血液型や持病、アレルギーなどの個人情報記入欄を設けた。出血多量時などで言葉を発せない状況且つ言語の通じない外国人の場合、上手く個人情報を伝えることができず対応が遅れてしまったという事例がある。このことから事前に記入できるようにし、有事の際に迅速な対応を行えるようにした。

③ 避難所までの行動（情報収集）

地震発生直後の揺れが収まった後の災害情報や、現在位置情報を利用した避難所までの経路検索など私達のマニュアルでは限界のあるリアルタイムな情報を取得するアプリとして観光庁が監修した「Safety tips」を用意。英語や中国語など 5 か国語に対応しており、訪日外国人でも円滑に利用することができる。医療機関や交通機関の情報も知ることができるため地震時には有効的であると考えた。さらにアプリを QR コード化し掲載したため直接ダウンロードでき、探す手間を省いている。また、異国の場合、知らない可能性も高い、日本の警察や救急などの緊急支援電話番号も記載。

④ サイズ

私たちが都内 2 箇所にて訪日外国人に行なった街頭調査によると、90.7%の外国人がパスポートを携帯していたことから、**パスポートと共に常時携帯**してもらいたいと考え、マニュアルをパスポートよりも小さくしパスポートに挟み携帯できるようにした。このマニュアルを事前に確認し、携帯しておけば慣れない異国での言語が通じない環境であっても地震が発生した際に、自分で身の安全を確保することができる考えた。

作成したマニュアルについての評価は都内 2 箇所にて訪日外国人に街頭調査を行ったところ、文章のみの既存マニュアルに比べインフォグラフィックを用いたおもてなしマニュアルのほうが 97.7%の人が理解しやすいと回答し、69.8%の人が日本にいる間携帯したいと回答した。今後の活動としては、今回作成したマニュアルを訪日外国人に提供する環境を整備することが必要になる。

最終目的として国際空港での入国時にパスポートに挟むことや、機内での入国カードと共に配布してもらうことをあげ国土交通省への提案を行ったが、法律的な問題はないが強制することは難しいなど対応は未だ難しいとの回答をいただいた。

まず、普及の第一歩として、訪日外国人が多く閲覧するインバウンドメディアに PDF 化し、掲載してもらうことで訪日外国人が母国を出国する前に個人での印刷を可能にする。インバウンドメディア 23 社にアプローチを行ったところ、2 社から前向きな回答をいただき打ち合わせを進めていく。今後もインバウンドメディアへのアプローチを続け掲載場所を増やしていく。「澤の屋」への効果検証をもとに都内ホテルを管轄している東京都ホテル旅館生活衛生同業組合へデータ提供を提案する。

7. 参考文献

[書籍]

櫻田 潤 (2013)「たのしいインフォグラフィック入門」ビー・エヌ・エヌ新社

東京都総務局総合防災部防災管理課「東京防災」(2015)

[論文]

池内幸司 伊藤夏生「首都直下地震の被害想定と対策」(2007)

亀井克之 石井至「熊本地震と訪日外国人旅行者への対応」(2017)

[WEB]

日本政府観光庁「訪日外客統計の集計・発表」(2018)

https://www.jnto.go.jp/jpn/statistics/data_info_listing/index.html (参照 2018-8-5)

株式会社サーベイリサーチ「熊本地震における訪日外国人旅行者の避難行動に関する調査」(2016年4月調べ)

https://www.surece.co.jp/wp_surece/wp-content/uploads/2017/10/kumamoto_overview.pdf

(参照 2018-8-14)

国土交通省「観光庁訪日外国人旅行者の安全確保のための手引き

～地域防災計画等に訪日外国人旅行者への対応を記載するための指針～」(2014年10月)

<http://www.mlit.go.jp/common/001058528.pdf>

日本赤十字社 災害時要支援者対策ガイドライン

http://www.jrc.or.jp/activity/saigai/pdf/saigaikyugo-3_document.pdf (2018-8-10)

<企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、実行委員会から審査員(ビジネスパーソン・大学教員)の方々に事前にお渡しいたします。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。また、インナー大会終了後、プレゼン部門にご協力いただいている日経ビジネス様(株式会社日経BPマーケティング)に大会結果ページを作成いただいております。大会結果ページにはチーム名やご提出いただいた本企画シートが掲載されます。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1～7以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、4ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4サイズでプリントし、4ページ目までをお渡します。

※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更(チームの人数・交代など)は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、実行委員会(プレゼン局)にご連絡ください。実行委員会側で協議のうえ、ご返答いたします。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※企画内容は、未発表の(過去に他誌・HPなどに発表されていない)ものに限りです。ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経BP社・株式会社日経BPマーケティングは一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先(使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など)を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Webサイト上の資料を利用した場合は、URLとアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。「有」の場合は使用するスライド番号も明記してください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。

※成果物を使用する場合は、必ず企画シートにご記入ください。企画シートにてご記入が無い場合、発表当日のご使用を「不可」とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

↑ **ここまでを4ページ以内におさめて、ご提出ください**